

怒られまいと心を閉ざす私に、
夫は心を開く大切さを
教えてくれていたのだと思います。
怖いと見ていた夫は、家族を守るのに
奮闘する思いやりの深い人でした。

厚木教会 柴田佳那子

柴田さん夫婦の関係は、ワンマンで気に入らないことがあると怒鳴る夫と、それに耐え、殻に閉じこもる妻というものだった。ところが、ある日夫が病に倒れ、夫婦の関係に転機が訪れる。身体の変調に気づきながら、家族に心配かけまいと、一人痛みと闘っていた夫。何でも一方的に決めてしまうと感じていたことは、実は家庭の舵取りすべてを夫に任せきりにしていたのだと気づいた。篤い後遺症と闘う夫に寄り添い、佳那子さんは「そのことに気づきたいまがとても幸せ」と笑顔で語る。



夫婦の縁を かみしめる

夫婦はお互いになくってはならない、まさに不思議な縁によって結ばれたものであり、それに気づくことにより、相手をいたわる気持ちがより深く、強くなっていくものです。また、夫婦はお互いに心を磨きあう存在です。たとえば、相手に不満を感じたとき、それをとがめたり怒ったりするよりも、「相手はいま、自分に何を教えているのか」と自身の態度を見つめ直し、心を磨いていくのです。そして、自分の善いところも悪いところも、適切に教えてくれるのが夫であり、妻であると見れば、苛立ちが感謝に変わります。

家庭は本来、安らぎの場であり、憩いの場です。しかし、昨今では、家庭が本来の役割を果たしてはならず、そのことは、痛みや悲しみをとまなう社会問題として現れています。立正佼成会では、お釈迦さまの教えを生かし、お互いに敬い、慈しみ合い、家庭をととのえる「齊家(せいけい)」に取り組んでいます。

立正佼成会